

- スタッフからの感想は次のようなものでした。
- ①カンファレンス時に、看護計画と共にケア内容を見直せて、変更した内容をすぐ書きなおすことができる。
 - ②患者様の状態の変化がわかりやすく、カンファレンスを進めやすい。
 - ③受け持ち看護師・介護員で確認しながら用紙を完成させる為、職種間のコミュニケーションが増えた。

【考 察】

サービス表を使用することで、患者様の状態の変化、現在の状態が把握しやすく、カンファレンスをすすめやすくなったと考える。

サービス表ミニがベッドサイドにあることで、患者様の情報がすぐわかることから、業務をスムーズに進めることにもつながっていると考える。

固定チームナーシングという点では、自分の受け持ち患者様の日常生活について実際にサービス表記入をすることで、受持ち意識の向上に有効だったと思われる。

また、協力しサービス表を作成する事で、職種間の連携にも役立っていると考えられる。サービス表の運用という点では、新人も含め、全てのスタッフがマニュアルを周知し活用する為に、マニュアルの見直しや指導方法などに課題が残る。

【結 論】

ケアサービス表の使用で、患者個々の情報が理解しやすくなる事がわかった。

【終わりに】

今後は、運用を充実させて患者様家族に積極的に提示し、意見を取り入れながら進めていくよう発展して行きたいと考えている。

【参考文献】

鎌田ケイ子・千田徳子編：高齢者ケアプラン策定の実際

寝たきりの患者さんの口腔乾燥を改善させるケアの実際 ～レモン水清拭と唾液腺マッサージによる唾液量の変化の比較～

第5病棟

○岩本しのぶ 梅津由美子 佐藤 直美
石塚 玉江 加藤ひとみ

【はじめに】

当病棟では高齢で脳血管障害があり、経管栄養を行っている患者様が多い。疾病と年齢から、唾液の分泌が低下し、口腔乾燥・舌苔などの症状のある患者様がいる。高齢で寝たきりの患者様にとって口腔の乾燥予防は、口腔内細菌による誤嚥性肺炎などの全身疾患への予防につながる。今回は患者様の口腔の唾液を増加させるケアに着目し、唾液量に少し変化が見られたのでここに報告する。

【方 法】

対象は病棟入院中の舌苔・乾燥のある胃瘻増設患者様3名（女性一名、男性二名）である。

【研究の対象】

舌苔・乾燥のある胃瘻増設患者様3名に唾液腺のマッサージと、10%レモン水による舌の清拭を実施し、唾液の分泌状態、舌の乾燥、舌苔の状態の変化をまとめてみた。

【結 果】

口腔アセスメント及び唾液量評価の結果
A氏について

・A氏に関しては、口腔乾燥状態・口臭ともにあまり変化は見られなかった。唾液量に関しては変化が見られない日もあったが、0.1～0.6gの範囲で増加が見られた。

B氏について

・B氏に関しては、口臭・舌苔の変化はなく、あまり効果がみられなかった。唾液量に関しては、唾液量に変化しない日もあったが、0.1g

から0.4gの範囲で唾液量増加がみられた。

A氏・B氏ではある程度の唾液増加がみとめられたが、現状では、マッサージによるものか、レモン水清拭によるものか、判断がつかない。そのためC氏の測定の際は、唾液腺マッサージ後レモン水清拭後、各々唾液量を測定することにした。また、A氏・B氏共に口腔ケア後の水でぬれた状態で唾液量を測定しているため、変化があまり現れないのでは、との意見もあり、C氏の後半は、口腔ケア後時間を置いてから、唾液量を測定し、唾液腺マッサージ・レモン水清拭を施行してみた。

C氏の唾液量の変化・前半。(唾液腺マッサージ後・レモン水清拭後に、各々唾液量を測定する)・唾液量が必ずしも増加しているわけではないが、レモン水清拭後のほうが変化が大きいように思われる。0.4~0.6gの範囲で増加がみられた。唾液腺マッサージにも効果があるようだが、増加量は0.1~0.2gの範囲である。レモン水清拭よりは効果は少ない。

C氏の唾液量の変化・後半。口腔ケアより時間を置いて、唾液量を測定し唾液腺マッサージ・レモン水清拭をおこなったもの。

・レモン水清拭後は0.4g~1g以上唾液量が増加するなど著明な変化がみえる。対して唾液腺マッサージは唾液量が0.1g~0.4g増加している。レモン水清拭ほど効果的ではないが、すこしずつ着実に増加している。

【結果・考察】

今回、口臭や舌苔に関してはあまり変化が認められなかったが、唾液分泌の点では増加が見られた。特にレモン水清拭は、唾液量の増加に有効ではないかという感触を得た。口腔は患者さん外界からの感染源であり、今後も意識して口腔ケアを行っていきたい。

【参考文献】

2000年8月 日総研出版臨床オーラルケア
(柿木保明氏 編著
医歯薬出版「唾液と口腔乾燥症」

転倒防止への環境対策 ～職員への意識調査を通して～

札幌しらかば台南病院 病棟

○東 和弘 佐々木美幸 松井 浩子
日下こづえ 三上 初子

【はじめに】

当院は高齢、認知症、脳梗塞後遺症の患者様が多く、転倒、転落のリスクが高い状況にある。

H19年8月からH20年4月までの9カ月間に67件の転倒のインシデントがあり、2件の骨折のアクシデント報告があった。その中で病室内での事故が多かったため、環境整備に着目し基本的なことからの見直しと改善により、少しでも事故を減らすことは出来ないかと考え、スタッフへのアンケート調査を行うことにした。その結果、スタッフへの意識づけのきっかけとなったので報告する。

【研究方法】

期間 H20年4月~10月

対象 病棟スタッフ25名

方法 環境整備に関するアンケート調査を2回実施。1回目の結果から課題を抽出しスタッフへの意識づけを行い2回目の結果と比較した。

アンケート内容は、①車椅子のブレーキ確認、②センサーマットのスイッチ確認、③センサーマットの位置確認、④ナースコールの位置、⑤車椅子の位置、⑥床の障害物の確認、⑦床頭台・オーバーテーブルの位置、⑧ベット柵の位置、⑨患者様の状態を把握した介助の9項目と、2回目のアンケート時に意見を記入してもらうようにした。

【結 果】

問1、2、4、5、6、7、8、9は1回目より2回目のアンケートの方が「毎回している」の回答が増えている。

問3の、センサーマットの位置確認では、1回目より2回目の方が「毎回している」の回答